

## 単元名 4 人間のきずな ―[推敲]表現の効果を考える

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。  
 (2) 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。  
 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

## 標準的な展開例

11210205\_001

【準備等】国語辞典

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 推敲するポイントを知り、適切な文章に直す。 ○ 本時の目標を確認し、学習の見通しをもつ。  ★推敲のポイントを知り、文章を正しく直そう。 ○ 手紙(p. 116)を推敲する。  ○ 推敲した箇所を理由とともに発表する。  ○ 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「推敲」の言葉の意味や、普段多い間違いを提示し、学習意欲を高める。</li> <li>・上達のポイント(p. 116)を参考にしながら、行間を空けた学習プリントを用意して、推敲させる。</li> <li>【評】手紙の推敲をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・国語辞典や巻末の常用漢字表などを参考にさせる。</li> <li>・漢字、言葉、文法の学習が日常で生きることを伝えるようにする。</li> </ul>

## 【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く惹きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多様な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどういう効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。これは、道徳のC-(14) 家族愛にあたり、自分と家族の関わりを見直すよい機会とさせたい。